神戸新聞 2018年06月20日 水曜日 面名 ター タ4 1ページ

随想 学生と読書

宮下　規久朗

10歳の頃、近所の書店で高階秀爾「名画を見る眼」という本に出会った。もともと絵を描くのも見るのも好きだったが、名画を分析して解読する明晰で論理的な文章に魅了され、自分で制作するよりも、偉大な美術作品を見て考える方がおもしろいと思うようになったのである。幸いその後、この著者に直接師事し、美術史の道に進んで今日にいたっている。

前回、人も美術作品も出会うべき時期があると書いたが、本もまさにそうである。読書には、若いうちにしか得られない感動がある。幼少の頃に出会った本は人生に決定的な影響を与えうるのだ。

にもかかわらず、今の学生はほとんど本を読まない。昨年、1日の読書時間が0時間と答えた大学生がついに5割を超えたというアンケート結果が報道された。試験やレポートのために参考文献を読むことはあっても、純粋な知的関心や楽しみのために本を読む学生は激減している。悲しいことに、私の教え子たちも、拙著すらあまり読んでくれていない有様だ。

それは主にスマホの普及のせいであろう。かつての日本では電車の中ではみな本や新聞を読んでいて、海外からの旅行者に感心されたものだが、現在は電車内ではほとんどの者が本も新聞も読まず、スマホばかり見ている。

もっとも、提出されたレポートから判断するかぎり、大学生の知的レベルはそれほど落ちてはいない。むしろ、メールやブログを書きなれているせいか、文章は巧みになっているような気がする。ただ、少しネットで調べた表面的な情報をつなぎ合わせるばかりで、読書から触発されるはずの自分なりの考察が浅いのである。

若いうちは、多くの人に出会うことも大事だが、それ以上に多くの本に触れてほしいものである。

（みやした・きくろう＝神戸大大学院人文学研究科教授）

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

NIEワークシート／中学校～高校／国語、総合、朝NIE

① 宮下規久朗教授が美術史の道に進まれたきっかけを説明している部分に線を引きましょう。

② 宮下教授は、学生が本を読まなくなった主な理由を、なんであろうと推測していますか。

（　　）

③ 宮下教授が学生に望んでいることは、どんなことでしょう。

（　　）

名　前　【　　】